

イエスはまなり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 158号

『イエスと囲む食卓』

マタイによる福音書 9:9～13

植草 榮一



イエスとその家で食事をしておられたときのことである。徴税人や罪人も大勢やって来て、イエスや弟子たちと同席していた。

最近、気になる話に「孤食」という言葉があります。新聞の投書欄に中学生の「ひとりぼっちのご飯は悲しい」と言う記事を読みました。内容は、家族、特に両親が忙しく働いていて、毎日の朝食も夕食も一人で食べることが殆どで、せっかくの美味しいご飯も食べる気がせず、泣きたくなくなる程、悲しくなると言うものです。また他の雑誌にも同じ様な記事を読みました。幼稚園児から小学校に通う子供たちにも「孤食」が増えているそうです。以前は、家族が食卓を囲んで、貧しくても一緒に「いただきます」と感謝し、「ごちそうさま」と言うことが習慣でした。考えてみますとその席で、生きてゆく為のマナーや常識を学んでいたのです。父親や母親の苦労も知らず知らずの内に身に付けました。「孤食」では、学び様がないのは当たり前で、昨今の世の中の犯罪も混乱も、それが原因の一つかも知れません。

聖書を読むと四つの福音書に驚く程、多くの食事に関する記事が出て来ますイエスはこの世に、人間の形で生まれて来られたので当然と言えば当然ですが、人として空腹を覚え、喉も乾いたことでしょう。ですから、人々の飢え渇きには、積極的に対処しておられます。5千人の給食の話など典型的な出来事でしょう。又、当時の常識を破って「徴税人や罪人」と食卓を共にしています。彼らは、世の中の嫌われ者でしたから。きっとその食卓が、弟子たちの訓練や伝道の場所だったのででしょうか。共に食事をすることによって、交わりがより深まるのは常日頃、誰でも経験するところです。今は昔、両親が食事の席で教育された様に、私達の食卓にも、イエスが共にいて下さって、家族が暖かい家庭を築いて行くことを、祈らずにはおられません。「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」(ヨハネの黙示録 3:20)

(アーケ福音ミニストーリー牧師)

霊 想

イエスは主である



日本イエスキリスト教団

前芦屋川教会牧師

小島 十二

愚かな罪深い私が「神の福音」にあずかった証をします。戦後日本国家の敗壞、苦悩する17才の私の最大事は「神は存在するか、否か」ということでした。父母が祈っていた天の神に、呼び求めたが、受け入れられず「不良青年の悪者は、資格なし」と闇黒界に怯えおののきました。この霊的経験は筆舌に尽くし得ないことです。戦慄の靈魂に、どこからか聖書を読めとインスピレーションがあり、聖書を手取り目に入ったことばは、第二コリントの手紙5章。「キリストの愛が私たちに強く迫っている」でした。父母の死後、創造神も御子キリストも無視し、自我の暗闇にいた私に対するキリストの慈悲の愛は、私のすべての罪を贖い、私が罪に死に、神に生きるためであると啓示され、トンネルの先の

一点のような光明が見えました。その後クリスチャンの来訪を受けてクリスト教会へ行きました。キリストも神も不可視ですが、キリストを信じる人々の集まりが、キリストのからだの教会でした。私は、神の生きたことばも、福音の力も、すべて聖書に書かれていることもまったく無知でした。

神は無知と肉欲と罪の力の配下にいた私を、神の聖霊によって書かれた聖書のことばを、聖霊に導かれるクリスチャンを通して福音の世界へ導いてくださったのです。

福音は、聖書すなわちキリストによる救いのことばです。人はどこから来て、どこへ行くのか人は何者なのか。人間の全問題を根本から解きほぐす愛の力です。「福音」は、新約聖書福音書に12回、パウロ書簡などに76回用いられている「良い知らせ」です。主イエスが「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ1章)と宣教して、神の国を啓示し、十字架の死後、暮より復活し、弟子たちに全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてパプテマスを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる(16章)と命じた福音です。

福音は思想や教訓ではなく、全世界に、全人格的に、霊と心と体の

全き救い、神の恵みと平和にいたる知恵とエネルギーをもたらす命の泉です。

使徒パウロは「私が伝えた福音：あなたがたが受け入れたあの福音を思い起こしてもらいたい。わたしが伝えたことばを守っておれば、この福音によって救われるのである。」(第一コリント15章)またロー

マへの手紙1章に、「この福音は、神が、預言者たちにより、聖書の中で、あらかじめ約束されたものであって御子に関するものである。御子は肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められたこれがわたしたちの主イエス・キリストである」(2:4)

「わたしは福音を恥じとしないそれは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人も、すべて信ずる者、救いを得させる神の力である」(16)と証しました。人はキリスト教に入って救われるのでありません。宗教儀式や組織や教理ではなく、生けるキリストに占領されて救われるのです。

アシュラムはキリスト教の説教会でも研修会でもありません。「イエスは主なり」の挨拶のように、生ける主イエスと父なる神との交わりです。(ヨハネ第1章) 聖霊にみちびかれる祈禱と御ことばの交わり。日ごとに、事々に御霊に導かれて教

えられ、道を示され、知恵と力を受ける交わりです。(詩編32章) 主イエスが朝毎に、父の御顔の交わりによって聞き、父のみ心を行動し生活されたごとく。ルカ福音書4章によると、サタンは聖霊に導かれる神の子キリストを誘惑しました。彼は聖書のことばで誘惑し、語ります。しかし、主イエスは聖書のことばの教訓や教理を「書いてある」と示すだけでなく、神は「こう言われる」と名言して勝利されたのです。私たちも聖書に「こう書いてある」と証し出来るように聖書を味わいましょう。しかし、聖書の知識だけでなく、私の神はこう言われると御声のメッセージを聞く交わりを毎朝確実にもつように信じましょう。成長しないう。エホバの証人はよく教理を学んでいますが、生けるキリストとの交わりのない疑似宗教ですから気をつけてください。「全て神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である」(ロマ8の14) 自我に死に、聖霊支配の生ける交わりが私たちアシュラムの福音です。万事祈禱万事聖霊。イエスは主である。「心をつくして主に依り頼め。自分の悟りにたよるなかれ」(箴言3章5節)



立証

信仰の階段を登る

単立東京カペナント教会

守屋 博久

2009年9月14日〜16日にかけて山崎製パン箱根山荘で第47回関東アシラムが行われました。大きな恵みを戴いて箱根を下る事が出来感謝でいっぱいです。

私のキリストとの出会いは東京カペナント教会日曜学校に通っていた頃です。求道心が生まれたのは目を患った時、自分の罪を知らされ、25歳の時昭和41年4月10日土屋頭一牧師から洗礼を受けました。キリストは色々な仕方でも信仰に導いてくれる方だと思いました。大学生の頃、駅前でトラクトを配布したり、バイブルキャンプに参加し充実したクリスチャン生活を送っておりました。就職はクリーニングの白洋社に入社しました創立者は熱心なクリスチャンで、三浦綾子の作「夕あり朝あり」は五十嵐健治氏をモデルにしています。社訓は畏神、服権、愛隣でした。YMCA、禁酒会もあり居心地の良い会社でした。28歳の頃結婚を考えるようになり、土屋順一牧師夫婦から同じ青年会でのちのことば社に勤めて居りました松浦姉を紹介され、結婚しました。やがて、静岡に転勤になり、子供3人にも恵ま

れ、仕事も順調で34年間勤めた会社を退職しました。ただクリスチャン生活はいま一歩でした。

しかし、大きな転換期がやってきました。元同僚からキリスト教に関する書籍がいっぱい送られて来たのです。一番感銘を受けたのは山本岩次郎著「期待されたピレモン」でした。聖書のことばは実社会で力強く働いていることを示されました。

もう一つの出来事は横山薫牧師との出会いでした。ご夫妻の暖かさにキリストを覚え、集会に参加するようになりました。そして牧師からアシラムの集まりを知りました。去年は途中で計報が入り一日しか出席出来ませんでした。今年も事前に「アシラムの原則と実際」の本に目を通してから参加いたしました。プログラムにそって「開心の時」司会者から「あなたは何を求めておられますか」と言われ、私のニードは「神のことばを聴きたいです。」と自然に言葉が出て来ました。すると、不思議に「ここにどどまっていなさい」と言う声が聞かれました。とどまると言うことは、しっかりと信仰を持ちなさいと言うことだと思

います。「静聴の時」を通して、聖書をへりくだって一言一句噛みしめ祈って読むことを教えられました。福音の時には助言者の小島十二牧師が兵庫県から病を押して来て下さり福音

を話されるのを聞いて自然と涙が溢れてくるのをおぼえました。いよいよ「充滿の時」が参りました。

私はよきおとずれの信仰を伝えて行かねばならないと強く思いました。祈りの細胞では次の聖句を与えられました。「何事でも神の御心にかなう願いをするならその願いを聞いてくださるということこれが神に對する私たちの確信です。」(ヨハネ第一の手紙5・14)この三日間を通して委員、山崎製パン(株)の暖かい心ずかいに感謝したいと思

います。来年も一歩前進した決意を持ってアシラムに出席したいと思っております。

函館栄光キリスト教会

ミニ・アシラム報告

佐々木 雄次

函館栄光キリスト教会ミニ・アシラムは二〇〇九年一〇月一日と二日間の二日間、助言者に横山義孝先生をお迎えし、「イエスは主である」を主題として、三四名(うち他教会からの参加は四教会、六名)の参加者によって開催されました。横山先生は、初日の福音の時には、フィリピ書二章一〜二節をテキストとし、スタンレー・ジョーンズ師が始めたクリスチャン・アシラム



の由来、御自身とアシラムとの関わりなどから語り始め、「イエスは主である」と言い表す人生について説き明かされました。先生のお祖父さまが晩年に主イエスを信じ、平安のうちに地上の生涯を終えられたというエピソードなど強く心に残りました。二日目には、ローマ書八章一二〜一七節に基づき聖霊に導かれたクリスチャン生活がどんなに祝されたものであるかをお話くださいました。神さまは結果ではなく、動機を見てくださるのだから、安心して信仰生活に励もう、というお奨めを感謝して聞きました。このような福音の説き明かしの後、開心の時、そして、祈りの細胞を守ったのです

が、心を開いて、正直に自分のニードを語り、祈り合う交わりは、集う者に平安と確信を与えただけでなく、主にある兄弟姉妹の絆を強めました。プログラム最後の充満の時は、司会の片山兄が十四年前に参加した関東アシラムの恵みを証しされたのが皮切りとなり、多くの証がなされました。また、昼食の交わり、静聴の時も「とても恵まれました」という感想が多く寄せられ、全てのプログラムが祝され感謝のうちに散会いたしました。出席した求道中の兄弟は、「アシラムで心が自由にされた」とおっしゃっていました、多くの兄弟姉妹が「心を開いて祈り合うことの大切さが身に沁み」とおっしゃっていました。また、他教会から出席された方からも感謝の言葉を頂戴しています。

このように今回はとても祝されましたが、今後もこの地においてアシラムが継続され、広がっていくように、また、教会がイエスを主とする人生のすばらしさをはっきりと言い表し、紹介していただけるように祈っております。

なお、末筆となりましたがこの度のアシラムのためにご支援くださいました横山、木部両師をはじめ、連盟の皆様にご心より御礼申し上げます。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻ください。

第44回

九州アシラム報告

鮫島 則雄



○九年九月二二日～二二日の両日、福岡県宗像市「黙想の家」を会場にして開催しました。巷では新型インフルエンザの発症率が一番高い季節だと騒がれていましたので心配したのですが、ご両名とも基礎疾患者であられる地区委員長の鍋倉勲師、助言者の斎藤剛毅師共に、「ぜひやりましょう！」との一言で実現の運びと相成りました。

大型連休の真ただ中でしたので各教団、教会、家庭それぞれにイベントがあり、参加者は一七名ほどでしたが、多くの誘惑と試練をクリアして選ばれた祈りの勇士たちが、

斎藤助言者を通して導かれる「祈りのこころ」を主から尊く学び取る恵みに与かりました。

斎藤師はS・ジョーンズ師が来日されて開かれた第一回アシラム全国大会(会場・天城山荘)に大学受験期にもかかわらず参加され、ジョーンズ師から個人預言されるかの如く、「若者よ、日本の救霊のために立ち上がれ」との促しにより、外交官志望の大学受験を諦め、ICUに、そして西南神学部へと導かれて兵庫県明石での開拓伝道から教会組織、その後の米國留学から帰国しての大学教育まで、徹底した祈りの中で主の細部に至る配慮をいただき、今があることを力強く証しされました。

主は出席者の人数が少なければ少ないなりに祈りの細胞内での交わりを濃く導かれ、参加者全員が主との交わりを新たにされていきました。

委員長の鍋倉師は、私が神学生時代、先生が牧会されていた教会で専任事務として働きながら三年半お仕えした恩師です。で昨年の集會終了時、前任の岡山教彦事務局長が転任されるので後をよろしくと言われ、いきなり事務局で仕えていくことになりました。主のお与えくださる出合いには決して偶然はない、と信じています。アシラムでの尊い出合いを大切にして、全日本に聖霊

各地区アシラム予告

のネットワークを張り巡らせていければ感謝です。これからも主の御手が熱くこの国に伸びてくると信じていますので、主が開いてくださった「至聖所での祈り」の恵みを深く体験し、我が国における救霊のご計画の中で用いていたければと願うばかりです。

斎藤師は集會終了後直ちに二つの手術が待っておられたのですが、すべて成功し、順調に退院されて、今は元気に講壇を守っておられます。ただただ感謝!

●第41回城北アシラム

と き '10年2月11日(休)午前10時

と き より午後4時45分

ところ 日本キリスト教団 新宿西教会

●第17回東京新生教会アシラム

と き '10年2月20(土)～21日(日)

ところ 日本キリスト教団 東京新生教会

助言者 新宿西教会 杉本和生師

〒一八一〇〇二一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一-14558
理事長 大石 嗣郎